

松山まちなか瓦版

No. 7

発行 / 松山市中心市街地活性化協議会
 ■松山商工会議所 TEL 089(941)4111
 ■まちづくり松山 TEL 089(998)3533
 Mail m_central2007@canpan.info
 発行日 / 2009年2月1日

NEWS 松山市中心市街地活性化基本計画が認定

松山市が平成20年10月8日付けで内閣総理大臣に申請しておりました「松山市中心市街地活性化基本計画」が中心市街地の活性化に関する法律に基づき、平成20年11月11日付けで認定されました。

松山市において策定が進められてきた中心市街地活性化基本計画が、中心市街地活性化本部(内閣府)より認定されました。本計画は、松山市が中心市街地活性化法に基づき国の補助を受けながら、新たな商業施設の創出や観光振興など68の事業を実施していく内容。策定に当たっては、本協議会との意見交換が密に行われ計画に反映されています。また、認定後もさまざまな事業を協議会関連のプロジェクトが主体となって進められる予定です。

松山市中心市街地活性化計画 国が認定	
内閣府は十日、松山市が申請していた中心市街地活性化基本計画の認定を内示した。認定は十一日付。同市は中心市街地活性化法に基づき国の補助を受けながら、新たな商業施設の創出や観光振興など六十八事業を展開する。県内の認定は、西条市に続き二例目。	光交流のまち」などを基本理念として事業展開する。主な事業は、堀之内公園や道後温泉駅周辺整備、J.R松山駅周辺土地区画整備、銀天街カラー舗装、県立中央病院整備などで、対象地域は約四百五十軒。計画最終年の二〇二二年度の数値目標を、▽歩行者通行量十九万五千人(現況十七万五千人)▽中心市街地内の観光客数百六十万(百三十四万八千人)▽小売年間商品販売額二千六百四十億円(二千六百三十九億八千二百万円)と設定している。
計画期間は本年度から五カ年度。「城下町ならではのにぎわいのあるまち」「坂の上の雲のまちづくりとまちなか回遊を生かした観光交流のまち」	松山市は〇七年度から同基本計画の策定を始め、松山商工会議所などをつくる市中心市街地活性化協議会の承認を得て十月に申請した。同市は「地元商店街や商工団体とも連携し、言葉一本で取り組んでいきたい」としている。

▲愛媛新聞平成20年11月11日

■ 松山市中心市街地活性化基本計画の概要

計画区域の面積	約450ha
基本方針	● 城下町ならではの賑わいのあるまち ● 「坂の上の雲」のまちづくりとまちなか回遊を活かした観光交流のまち ● 便利で、楽しい商業のまち
目 標	● 街なかの賑わい創出 ● 街なかの観光交流人口増 ● 街なかの商業活性化
計画期間	平成20年11月から平成25年3月まで

みなさんのご意見をお待ちしております

松山市中心市街地活性化基本計画がそこで暮らす人や働く人たちの思いに沿ったものとなるようみなさんのご意見をお待ちしています。

m_central2007@canpan.info

ホームページで松山市中心市街地活性化の情報を見るができます

協議会関連の情報はじめ、松山の中心市街地の活性化に関わるさまざまな情報を掲載しています。

<http://www.ehime-iinet.or.jp/machinaka/>

レポート：セミナー&シンポ

まちづくりと中心市街地活性化 —大型SCと商店街の共生の道を探る—

日時：2008年10月11日(土)13:30～17:00

場所：松山大学844番教室



松山大学文系4学部の教員及び学生が協力して、2008年4月にオープンした中四国最大規模といわれる大型ショッピングセンター・エミフル松前の顧客アンケート、装い新たになったロープウェー街の個々のお店や通行人・学生のアンケート調査を実施しました。

この調査は、新設・更新された街や施設の状況把握するだけでなく、中心市街地の活性化、さらにまちづくりのあり方についても調査・研究をするものです。第1弾として行われた調査報告会とシンポジウムの様子をご紹介します。

第1部 13:30～14:20 学生による地域調査報告

- ① エミフルMASAKI顧客アンケート調査報告
- ② ロープウェー街再生事業に関するアンケート調査報告

第2部 14:30～17:00 シンポジウム

まちづくりと中心市街地活性化—大型SCと商店街の共生の道を探る—

パネラー

日野 二郎(まちづくり松山社長)、森山 博行(エミフルMASAKI執行役員支配人)
豊田 博(松山商工会議所事務局次長)、山上 裕之(松山大学経営学部学生)
矢野 史紗(松山大学経営学部学生)、澤田 奈央(松山大学経済学部学生)、吉岡 洋一(経営学部教授)

進行

鈴木 茂(経済学部教授)

当日は松山大学の階段教室に学校関係者や商店街関係者、行政職員、一般住民など大勢集まりました。第1部として開催された調査報告と分析、提言は学生ならではの遠慮の無い(容赦ない?)、率直な意見が述べられ、苦笑いが場内を包む場面もしばしば。将来の街をリードしていく若者世代の感覚や街に対する評価がダイレクトに伝わる会となりました。

特に印象的な発言に「商店街の店主自身が商売やまちづくりに対してやる気を失っている中で、いくら周囲が中心市街地の活性化を叫んでも意味がないのではないか?」といった問いかけがありました。あまりにもストレートな投げ掛けに(彼女にとっては素朴な疑問?)、びっくりしつつ展開を見守る中、商店街を代表して登壇していた日野二郎氏(まちづくり松山・社長)から次のような返答がなされました。

「今、商店街は世代交替、更新の時期にきています。商店街が成長・発展している過程においては、店主も頑張って商売に精を出し、それに伴ってまちづくりにおいても共通の目標を見つけて進むことができました。しかし街が成熟した今、全ての人に熱意をもってまちづくりに関わってもらうことは難しく、イベント一つ共同開催するのも一苦勞です。でも、このままじっとしては、松山の街がなくなってしまうという危機感の中、主体的にまちづくりに関わる人が出てきているのも事実です。現に私たちが組織するまちづくり松山はその象徴のような組織です。今、私たちに必要なものは、それらやる気のある人が自由に動ける仕組みです。いろいろな立場の人が、自由に意見交換をし、合意形成を重ねていくための場所も必要です。私たちは、それら必要な

ものを商店街に足を運んでくれる市民や行政の力も借りながら一つずつ、準備していている最中です。どうか、学生のみならず応援してください」

シンポジウムの冒頭、鈴木先生より、文化系の学生に現場に触れることで得られる「感動」を味わってもらいたいという思いから、本調査がスタートしたという今回の取り組みに至った背景について説明がありました。商店街×学生・大学のコラボレーション、商店街のすぐ側に大学生の街が隣接する松山ならではの活動が今後、生まれてきそうな…そんな気配を感じさせる有意義な会となりました。

こうすれば、もっと魅力的!! 学生からのロープウェイ街に対する提案

1. 交通対策

車道・路肩・歩道の明確化、自動車の時間帯走行、無料駐車場の整備

2. 商品・サービスの内容を再検討し、客層の変化に応じたビジネスを行う

独創的な商品の開発・メディアの活用
若者を意識した店づくり(若者が運営できる店舗の設置)
観光客を意識した店づくり(定休日の見直し、マップ・広報紙)

3. イベントの開催

毎週開催
(共通ポイントカード、フリーマーケット、ストリートライブ等)

4. 県内各地域の特産品のアンテナショップを開設

特産品の実演販売
→観光客だけでなく地元客も集客可能

▲学生たちから具体的な提案も出されました